



くにたまの会

くにたまの会会報

【第9号】
 発行／くにたまの会
 島根県出雲市大社町杵築東195
 出雲大社社務所内
 TEL：0853-53-3100

大社神社（愛知県）

社伝によると、天元・永観（978～985）の頃、時の国司 大江定基卿が三河守としての在任に際して、三河国の安泰を祈念して、出雲国大社より大国主命を勧請し、合わせて三河国中の諸社の神々をも祀られたとある。社蔵応永7年（1400年）奉納の大般若経典書には、奉再興社宮大社大神奉拜600年と有る事から、天元・永観以前より当社地には何らかの堂宇が存在し、そこへ改めて出雲より勧請して、神社造営をしたものと考えられる。当社には、徳川14代将軍 家茂が長州征伐に際して、慶応元年5月8日、戦勝祈願をされ、短刀の奉納をされております。」とある。

また、明治5年（1872年）には、大社神社は国府村の総氏神となる。

会員の皆様方には、それぞれの奉務神社での日々のご奉仕の中で、大国主大神様の御神徳の宣揚・啓発にお努めの御事、何よりに存じ上げます。

未だ幼い国土を開拓なされ、そして生きとし生けるものの幸縁を結ばれる「国づくりの大神」縁結びの大神として日本全国に広がる大神様に対する信仰の輪は、偏に皆様方のお務めのお蔭と感謝申し上げます。

畏くも天皇皇后両陛下におかれまれましたは、愈々日々麗しく御公務に御精励あそばされておられますこと、洵に慶賀の至りに存じます。此処に奉祝の誠を捧げると共に大御代の弥栄を祈念し、御皇室の尊厳維持に一層努めて参りたいと存じます。

さて、新型コロナウイルスが蔓延し始めて三年目を迎えましたが、未だ終息の兆しが見えません。次々と現れる変異株に翻弄される日々が続いている中、ロシアがウクライナに軍事侵略を開始しました。その戦禍は拡大の一途をたどり、罪のない多くの人命が失われております。

我が国においては戦後七十七年が経過し、戦争を経験した世代の減少と共に、戦争に対する意識が低く



ご挨拶

くにたまの会総裁
 出雲大社宮司

千家尊祐

なっております。大神様がお示しになられた「和譲」の精神に習い、互いに助け合い尊重し合う社会の実現のために、我々神職の果たさねばならない務めは極めて大きいものであります。

また会員の皆様方それぞれの奉務神社におかれましても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために通年のような祭事・行事のご奉仕が困難となり、大変なご苦労をなさっていることと拝察します。しかし歴史を紐解くと、先人たちは幾度もこうした疫厄の難事を乗り越えてきました。本年は出雲大社で神在祭が斎行されました十一月八日（旧暦十月十五日）に皆既月食がありました。皆既月食は古来不吉な前兆なども云われて参りましたが、一度姿を隠し、そして魂を取り戻したかのように速やかに蘇る月を眺めていますと、困難を克服し再び立ち上がってきた先人達、そして幾度もの神難を乗り越え、その度により強く蘇りを果たされました大神様のお姿とも重なり合いました。光が失われたかに見える現代が、大神様の御蔭により速やかに光を取り戻し、清らかなる御代への蘇りが果たされますよう、皆々と

心の一つにして参りたいと存じます。年に一度、会員の皆様方が一同に会しての集いで、皆様方にお会いできることを楽しみにしております。が、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み「令和四年度 くにたまの会」役員会・総会は誠に残念ではあります。昨年引き続き本年も止む無く中止とさせて頂いたことに致しました。今日に至るまで皆様方へのお知らせ並びに会報が大変遅くなりました事深くお詫び申し上げます。

私たちは大國主大神様にお仕える者として、本会の活動を通じて誇りある日本の伝統・文化とその精神の継承に努めているところです。現下は誠に困難な世情であります。数々の困難を克服して神事をお治めなさる大神様の神柄に習い、困難にあっても、更なる御神縁の輪を広く結び、斯界の発展に寄与していくことが私たちの使命であります。

今後とも大神様への信仰を通じ、その御神徳の宣揚と啓発に力を合わせ、共に精進をと念じ上げますとともに、本会にお心寄せをいただきますようお願いを申し上げます。

末筆になりますが、聖上の安泰長久、皇室並びに我が国の弥栄、会員の皆様方の奉務神社の益々のご隆昌、そして感染症の一日も早い鎮静化をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

令和四年度 くにたまの会

兵庫県支部役員会・総会

於射楯兵主神社

令和四年六月十九日、くにたまの会兵庫支部役員会・総会が、兵庫県姫路市総社本町鎮座射楯兵主神社総社会館を会場として開催されました。

午後三時からの役員会は、役員八名の参加、午後四時からの総会は、十名の参加となりました。



神宮並びに奉務神社遥拝

総会は、盛田副支部長（夜比良神社宮司）の開会の辞より始まり、参加者全員による神宮並びに奉務神社遥拝、国歌斉唱を行いました。

また、昨年帰幽なされました兵庫県支部役員、生石神社東宮司様、平野原神社山本名誉宮司様に黙祷を捧げました。

西本支部長（射楯兵主神社宮司）からの挨拶では、「新型コロナウイルス

感染症拡大により、二年に亘り総会を中止せざるを得なかった事は、支部長として大変残念な思いでありました。三年ぶりの久々の総会を開催できますことは、ご神慮の賜でありますと共に、会員の皆様のご支援によるものであります」と、感謝の言葉を述べられました。

続いて、西本支部長を議長として議事に入りました。

令和三年度事業報告では、前年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、役員会・総会・巡拝会のすべてが中止となった旨の報告がありました。

そして、令和三年度会計決算案を行いました。前年度は、コロナ禍の為支部活動を行うことが困難となり、支出



西本支部長挨拶

の部では予算を大幅に下回る事となりました。

りました。従来通りの決算を行うと、次年度繰越金が増大していきます。そこで、今後の全国大会などに備える為にも、特別積立金を設け、決算を行った旨の説明がありました。

令和四年度事業計画案では、巡拝会実施を十一月末頃とし、参拝神社については播磨国一宮伊和神社となりました。

次に、令和四年度会計予算案では、事業計画に做った予算である旨と、支出の部「雑費」を科目から削除し、「予備費」と「特別積立金」の科目を追加する旨の説明がありました。

以上の議案が慎重審議され、いずれも全会一致により承認されました。終わりに、別所副支部長（湯泉神社宮司）が閉会の辞を行い、総会を終えました。

引き続き、同会場にて新型コロナウイルス感染症対策を施し、懇親会が行われました。

懇親会では、廣瀬地区理事（荒井神社名誉宮司）より来賓のご祝辞の後、乾杯のご発声により、祝杯を高くに上げました。

続いて、くにたまの会総裁千家尊祐様（出雲大社宮司）より頂戴しました祝電をご披露申し上げ、三年ぶりとなる懇親会は終始和やかな雰囲気、会員相互の親交を深めて終えました。



役員神社紹介

金刀比羅宮

【鎮座地】

香川県仲多度郡琴平町八九二一

【御祭神】

大物主神・崇徳天皇

【御由緒】

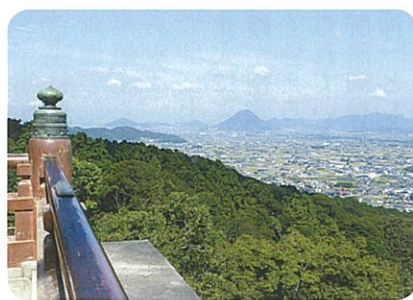
「さぬきのこんぴらさん」の名で親しまれている金刀比羅宮は、瀬戸内海を望む瀬戸内海国立公園、名勝天然記念物の指定を受けた景勝の地である象頭山（琴平山ともいわれます）の中腹に鎮まっています。



金刀比羅宮 御本宮

創建された年代は明らかではありませんが、古来からの伝承によれば、早い時期から大物主神をお祀りして琴平神社と称し、すでに平安時代には幅広い信仰を集めておりました。

そして平安時代の末期永万元年（一一六五）七月には、保元の乱に遇って讃岐国に配流されたまま崩御された（亡くなられた）崇徳天皇の御霊を合せお祀りいたしました。



展望台からの讃岐平野

奈良時代に始まった神仏習合による本地垂迹説（世の人を救うために仏が神に姿を替えてこの世に出現したとする説）の影響を受けて、室町時代頃には金毘羅大権現と改称されており、金光院松尾寺の住職を金毘羅別当とする大神域に及ぶ組織が形成されていきました。

江戸時代中頃の桃園天皇の御世、宝暦三年（一七五三）十二月に皇室の勅願所となり、同十年（一七六〇）五月には日本一社の綸旨（天皇の命令文書）を賜り、明治初年に至るまで毎年春秋に皇室の安泰祈願が行なわれてきました。

明治元年（一八六八）三月の神仏分離によって元の琴平神社に改められ、同年七月金刀比羅宮と改称して現在に至っています。

ご祭神の大物主神は、大国主神の和魂神であり、古来「海の神様」として漁業・航海など海上の安全を守ってくれる神としての信仰だけでなく、農業殖産の神、医薬の神、技芸の神としても全国各地の人々から篤い崇敬が寄せられています。特に江戸時代中頃から、海の神様として信仰した船乗りの人々がその神徳を各地に伝えるとともに、十返舎一九や滝沢馬琴の読み物などの影響によって「こんぴら参り」がブームとなるなど、民衆・庶民の神様として身近な気安さを感じさせる神様です。



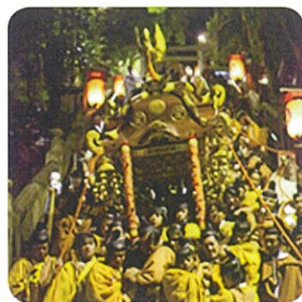
石段を登られる参拝者

このような信仰のあらわれは、こんぴらにまつわるさまざまな説話や奉納された数多くの絵馬や宝物類を通じてうかがうことができます。金刀比羅宮は、皇室を始め平安貴族、戦国の英雄、江戸時代の大名、それにも増した庶民の絶対的な信仰を集めて、この香川県の琴平の地に鎮まっています。

【例祭】

「例大祭」は曆本に「金刀比羅祭」とある金刀比羅宮の特殊神事・主要な祭典で、「宵宮祭」「御本宮例祭」「御神輿渡御」は十月九日～十一日の三

日間で齋行します。特に十月十日は、年に一度、大神様が琴平山の麓の門前町に下りられる「お下がり」の日です。



御神輿

その御神輿渡御は、数百名が御本宮から町内の御神事場まで約二キロメートルを進む平安絵巻さながらの大行列です。大神様の御神輿は、行列先頭の「お頭人さん」と呼ばれる乗馬の男子児童二人と駕籠の女子児童二人に導かれます。邪心のない子どもたちは神を導くことができます。



奉納蹴鞠

金刀比羅宮

【URL】 <http://www.konpira.or.jp>
【Twitter】 @kotohiranomiya

会員神社紹介

たんばのくにいちのみや
丹波國一之宮

いずもだいじんぐう
出雲大神宮

【鎮座地】

京都府亀岡市千歳町千歳出雲無番地

【御祭神】

大国主命(おおくにぬしのみこと)
三穗津姫命(みほつひめのみこと)

【主な祭典】

鎮花祭(四月 十八日)
例大祭(十月二十一日)

【御由緒】

千歳の古道の奥宮に聳える御神体山(御蔭山)を仰ぐその麓に、「出雲大神宮」が鎮座する。神代の昔、一万年以上前とも云われ崇神天皇が丹波地方全域を平定された折に再興される。古くは出雲神社、千年宮とも云われ、大八洲国祖神社とも伝えられる。

社殿創建は奈良時代中期・元明天皇和銅年中、和銅二年十月二十一日(西暦七〇九・皇紀一三六九)と伝わる。

平入三間社流造・檜皮葺の社殿は鎌倉時代創建、貞和元年(西暦一三四五・皇紀二〇〇五)に足利尊氏に修造される。現本殿は、室町幕府管領、丹波守護職の細川勝元が願主となり、文安二年(西暦一四四五・皇紀二〇〇五)に修造され、現在に至る。

「日本紀略」弘仁九年(西暦八一八・皇紀一四七八)十二月十六日条「丹波國桑田郡出雲社、名神に預る」の記述有り。延喜式神名帳では名神大社に列する。正応五年(西

暦一二九二・皇紀一九五二)に神階正一位に昇格する。明治三十九年(西暦一九〇六・皇紀二五六六)旧国宝(重要文化財)に指定される。三大御神徳は「縁結び・金運・長寿」である。



出雲神社境内見取総図(明治期)

大国主命とその后神にあたる三穗津姫命をお祀りする。丹波國風土記には「別に説あり」とことわり、天津彦根命、天夷鳥命が同座鎮座である。又、富士古文書(宮下文書)では、首座は国常立尊の神霊をお祀りし、両側の二座に大国主命、三穗津姫命が鎮座していると云う内容の記述もある。

嘗ては三十六社の撰末社があったが、兵火により失われている。

社殿が創建される以前は円錐形に美しく聳える「御蔭山」が太古より崇められていたと伝える。その御蔭山が所謂御神体山として聳え「出雲の大神」として崇められていたのは我々の想像以上に古くから出雲大神と敬われる御神体山として聞こえ伝えてくる。この出雲大神が、更に国史最初の国祖と称え奉る事は、我が国神祇道に正史として伝える国常立尊が丹波國、或いは亀岡の祭神となっていたものと伝わる。この桑田

郡がそういう立地条件でもって「神都」となり、ここから大和、出雲兩國への文化の伝達もあつたと考えられる。

太古に於いて国常立尊は天が下に下り、田場の真伊原に在して桑田の宮(出雲の宮)を築かれ、国の半分を農業を主として理想的に統治されていた。国常立尊は薨じて後に田羽―田場―出雲御神体山に葬られ、そして出雲毘女皇らに依ってその御神体山の麓の祠に祀られる。出雲毘女皇が桑田の宮と国常立尊の祠を守護し、出雲毘女皇も薨じた後は御神体山に葬られる。この毘女皇は三穗津毘女皇と諡されて祠に祀られ、出雲大神と呼ばれる様になった由も伝えられる。



「出雲神社榜示図」
亀岡市指定文化財

亀岡は桑田郡に位置をし、「桑田の宮」に符合する。又、三穗津姫命は出雲大神宮の祭神である事を思い廻らせると、愈々以てこの神社が古来より出雲の大神と崇められていた處、との結論に導かせるのである。そして田羽山なるもの(谿羽)が、御神体山の御蔭山に相当するということになる。

【徒然草】

鎌倉末期、或いは室町初期に兼好法師により著された『徒然草』の

二二六段「丹波に出雲と云ふ所あり」には、出雲大神宮の事が記載されている。

【粥占祭】

一月十五日齋行古くから当宮に伝わり、前夜、神饌所にて宮司による火入神事(浄火)が行われた後、秘伝の方法により竹筒と小豆と米を混ぜた粥を炊き上げ、竹筒の中に入っている米と小豆の量で一年の稲の収穫豊凶を占う。



千年宮鳥居(社号標)
後方には御神体山
「御蔭山」



神乃磐座
(御本殿北・
出雲古墳前方)



出雲大神宮 御本殿
(旧国宝・重要文化財)

出雲大神宮ホームページ
[URL] <http://www.iizumo-d.org>

役員改選について

常日頃より「くにたまの会」の活動に際してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本年も新型コロナウイルス感染症により、昨年に引き続き「くにたまの会」総会は誠に残念ではありますが中止することとなりました。

昨年お知らせ致しました、延期となっております議案「役員改選」について、本来であれば総会における会員神社各位の承認が必要ですが、会の運営に必要とされる新理事長選出が含まれるため、今回に限りましては役員会の書面決議をもって総会議決とさせていただきますことをご了承くださいますようお願い申し上げます。

役員改選において、北海道神宮 吉田源彦様、金刀比羅宮 琴陵容世様、荒井神社 廣瀬明正様におかれましては、各神社において名誉宮司に就任され、くにたまの会理事長・副理事長・理事を退任されましたことをお知らせ致します。発会当時から御尽力いただきました方々であり、今後益々のご活躍をお祈り致しますとともに、これからも当会へのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

尚、北海道神宮 吉田源彦名誉宮司様には改めて当会顧問へご就任いただきましたことを皆様へお知らせ致します。

また、副理事長・理事の補選につきましては、次年度役員会・総会へ議案提出し、会員神社の皆様のご意見のもと新体制とさせていただきますことを申し添えます。

※令和五年の「くにたまの会」役員会・総会の開催につきましては、令和三年度に開催を予定しておりました愛知県三河国において繰り越して開催をさせていただきます予定となっておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

「くにたまの会」事務局



役職	神社名	宮司名	都道府県	
総裁	出雲大社	千家尊祐	島根県	
顧問	北海道神宮	吉田源彦	北海道	新任
理事長	大神神社	鈴木寛治	奈良県	新任
副理事長	大國魂神社	猿渡昌盛	東京都	留任
副理事長	日光二荒山神社	中麿輝美	栃木県	新任
理事	日吉大社	馬渕直樹	滋賀県	留任
理事	都農神社	永友謙二	宮崎県	留任
理事	高瀬神社	藤井秀嗣	富山県	留任
監事	出羽三山神社	宮野直生	山形県	留任
監事	小國神社	打田文博	静岡県	留任

「くにたまの会」会員神社異動報告

●宮司就任・退任

- 永見 和弘 (島根県 森荒神社宮司退任)
- 平岡 邦彦 (島根県 森荒神社宮司就任)
- 秦 武男 (島根県 水川神社宮司退任)
- 秦 崇弘 (島根県 水川神社宮司就任)
- 菱沼 拓己 (栃木県 鷲宮神社宮司就任)

「くにたまの会」会員神職帰幽

- 小田 瑞穂 (広島県 甘南備神社名誉宮司)
- 菱沼 至広 (栃木県 鷲宮神社宮司)
- 沼部 春友 (栃木県 須賀神社名誉宮司)
- 遠藤 融 (島根県 玉作湯神社名誉宮司)

右の方々のご逝去を悼み、謹んで追悼の意を表します。

※会員神社の異動報告等について記載漏れがございましたらお詫び申し上げます。
慶弔のお知らせがございましたら「くにたまの会」事務局までお知らせ願います。
会員の皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。



会員増加の動向と今後の方針

本年度も地域神社への呼びかけにより

- 京都府 八坂神社宮司 野村明義様
 - 広島県 通保姫神社宮司 渡部公磨様
 - 高知県 池川神社宮司 片岡政徳様
 - 東京都 北野神社宮司 大野政時様
 - 埼玉県 氷川神社宮司 鈴木邦彦様
- 以上の五社に新たにご加入いただきました。
現在の会員神社は新規加入神社を含め三〇八社となりましたが、まだ少ない県があるようです。

周囲に会員神社が不在であると、入会意志があってもなかなか踏み切れない神社も多いかと思えます。役員神社をはじめ会員神社の皆様には地域や県の垣根を越えて、友人・知人などあらゆるご縁のもと、新たな入会神社を募っていただきたくお願い申し上げます。

※我々、事務局の怠慢により会報が大変遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

「くにたまの会」事務局

「くにたまの会」会報ご寄稿のお願い

皆様よりお寄せ頂きました写真や記事・情報をホームページや会報に掲載させていただきます。

就きましては、遷座祭・式年祭・特殊神事・地域の伝統行事・身近な出来事等どんな事でも結構でございますので、ご寄稿を賜りますようお願い申し上げます。

送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」まで

電話 〇八五三一五二二一〇〇

メール johoh@izumooyashiro.or.jp

※写真を添えてお寄せ下さい。